

40 号の刊行にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Adachi, Takuro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00054658

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



40号の刊行にあたって

足立 拓朗

(金沢大学歴史言語文化学系 (人文学類考古学専門分野・特別プログラム：考古学))

今年度の金沢大学考古学紀要は、藤井純夫先生の退職記念号として編集した。本紀要には、6篇の論考が寄稿されたが、この中に藤井先生の専門である西アジア考古学の研究論文は含まれていない。その理由は、六一書房から全372頁の退職記念論文集(英文)が刊行されていることによる(Nakamura et al. 2019)。この論文集に西アジア考古学の論考を収録し、本紀要には西アジア考古学以外の論考を和文で掲載している。

藤井先生は1994年10月から金沢大学に奉職され、多くの学生の教育に携わった。また、膨大な研究・調査を実施し、斯界で指導的な役割を果たされてきた。考古学研究室では藤井先生の退職にあたり、例年の考古学大会を退職記念大会として実施し、また2月には最終講義の会を開催した。以下にその概要を報告する。

2018年11月日(土)に第44回金沢大学考古学大会(藤井純夫先生退職記念大会)を実施した。この記念大会は石川四高記念文化交流館で開催し、卒業生、在学生、教員など、35名が参加し、以下の研究発表が行われた。

最初に、水谷侃司氏(三重県埋蔵文化財センター)による、「伊賀地域における中世陶器の一樣相」が発表された。水谷氏は在学中に藤井先生のヨルダン調査に参加した経験がある。続いて、鈴木香枝氏(株式会社イビソク)による、「文化財保護法改正に伴う、近年の史跡整備を巡る動向」が発表された。鈴木氏は大学・大学院在学中に藤井先生のヨルダン・シリア調査に何度も参加し、博士前期課程修了後もサウジアラビア調査に参加している。藤井先生の調査に最も多く参加した金沢大学関係者と言える存在である。3番目の発表者である覚張隆史氏(金沢大学国際文化資源学研究センター)は、金沢大学着任後に藤井先生のサウジアラビア調査に参加した文化財科学の専門家である。発表内容は「伊川津縄文人骨の全ゲノム解析から見えた縄文人祖先集団の移動ルート」であった。最後に山藤正敏氏(奈良文化財研究所)による「農村から都市へ—前期青銅器時代南レヴァントにおける住居の変容—」が発表された。山藤氏は金沢大学出身者ではないが、学部時代から藤井先生のヨルダン調査に長く参加し、博士論文執筆後は金沢大学で日本学術振興会の研究員として研究に従事した。記念大会後には、片町に会場を移して、盛大な記念懇親会が行われた。

2019年2月4日(月)には、石川県政記念しいのき迎賓館の3階、セミナールームBで藤井純夫先生の最終講義が開催された。最終講義の演題は、「Decades in Deserts: 西アジア遊牧社会の起源を求めて」であり、72名の参加があった。月曜日の開催にも関わらず、県外からも多数の考古学関係者、卒業生が集まった。講義の内容は、これまで藤井先生の調査・研究を概観し、さらに今後どのような展開を計画しているかを説明するものであり、



写真1 最終講義での藤井純夫先生



写真2 最終講義の様子

学類生、院生などのこれから研究者を目指す人への指針となる研究発表であった（写真1～3）。講義終了後に、記念論集と花束の贈呈が行われた（写真4）。

最終講義終了後、香林坊に会場を移して午後3時半から懇親会が開催され、西アジア考古学関係者や卒業生の間に活発な意見交換がなされ、有意義な会となった（写真5）。懇親会の中に藤井先生へ万年筆が記念品として贈呈された（写真6）。午後5時半に懇親会は終了したが、そのまま四次会まで進み、翌未明に新天地界限で解散となった。

今年度末で考古学専門分野の学生はほぼ卒業し、学内に考古学専門分野という枠組みは、ほぼなくなる。その代わりに2016年度入学生から「特別プログラム：考古学」がスタートしている。今年度12月にプログラム2期生が確定した。第2期のプログラム生は、フィールド文化学コースから4名、歴史文化学コース（日本史主履修分野）から1名の合計5名となった。金沢大学の考古学研究室として、彼らは第45期となる。

2年後にはさらに大きな学類改組が計画されている。この変革期において、教育・研究の一層の向上を図りながら、金沢大学で「考古学」の看板を存続させられるのか、正念場を迎えている。

本書、『金沢大学考古学紀要』は、金沢大学附属図書館学術情報リポジトリ KURA で、冊子体版と同じ内容のPDF（カラー版）を一般公開している。また、考古学研究室ではWeb版の小雑誌『金大考古』も刊行している。こちらは研究室主催の考古学大会で発表された論考などを中心に編集しているが、ある程度は頁数に制限なく掲載できることが特徴である。これも KURA で無料一般公開している。ご覧いただければ幸いである。

Nakamura, S., Adachi, T. and Abe, M. (eds.) 2019 *Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in honour of Sumio Fujii*, Rokuichi Syobou, Tokyo.



写真3 最終講義での藤井純夫先生



写真4 記念論集の謹呈



写真5 懇親会の様子



写真6 記念品の謹呈